

## 2. 剣道授業への 学生派遣事業の 効果検証

鹿屋市立鹿屋中学校の  
剣道授業サポート事例

剣道



## 2. 剣道授業への学生派遣事業の効果検証

### <事業概要>

生徒との年齢が近く、剣道の専門的知識・技能を有する大学生を中学校の武道授業の授業協力者として派遣することによってもたらされる、生徒の知識、技能レベル、関心・意欲等の変化や、教員、大学生の意識・意欲の変化も捉えて成果と課題を明らかにする。

### 1. 鹿屋市立鹿屋中学校の剣道授業サポート事例

#### (1) 鹿屋市立鹿屋中学校について

創立 75 年目を迎えた鹿屋中学校は、校訓「自主、自律、協調」、学校教育目標「気付き、考え、実行する」を目指し日々活動されている。平成30年度から、鹿児島県総合教育センター研究提携校となり、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業改善の在り方などがオープンスクール等で公開されている。「学力・体力・人間力大隅一」を学校スローガンに掲げ、異学年で一緒に取り組まれる縦割り活動や、学力向上検討委員会への生徒会の参加など、特色ある取組が多く実施されている。



#### (2) 剣道授業の計画及び授業実施に向けての課題

令和 3 年度の鹿屋中学校における武道領域の授業は男子生徒が柔道、中学 1・2 年生女子生徒が剣道を受講することとなっている。剣道の授業は秋期の校内行事が終了後、11 月から 12 月にかけて 10 回実施することが予定されており、男性体育教員 1 名が担当している。

授業実施に向けての課題については、武道全般の特性である、伝統的な行動の仕方、礼儀・作法の習得とそれに伴って他者を尊重する態度を剣道の授業内でいかに芽吹かせるかということが大きな目標である。さらに「竹刀」という用具を両手で駆使しておこなう剣道は、基本的な動作の習得すら困難に思えがちである。これらのことから武道(剣道)授業で生徒が身に付ける(身に付けてほしい)ことは、武道を学習する上での心構えと技術の基礎とされる、剣道の基本動作である。

### (3) 剣道授業サポートの実際

本県における中学武道授業種目実施率を見ると、柔道が64.1%、剣道が26.2%(月刊「武道」2021年12月号)とあり、武道授業に剣道はあまり採用されていない。このことを鑑みると本県において剣道の専門的技術を有する中学校保健体育教員は多くはないことが考えられる。また、種目特性から生徒のみならず教員側においても剣道の技術の習得は他の種目と比べても容易ではないと考えられる。鹿屋中学校においてもそれは例外ではなかった。

上記を踏まえた上で、以下の点に配慮した。

#### ①派遣学生の選定

鹿屋中学校の剣道授業実施にあたって、専門的技術を有し且つ臨機応変にサポートができると思われる大学生2名を派遣した。派遣学生の選定条件として、将来教職を希望し、本学の専修武道論・実習(剣道)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修(但しⅣは履修中)した剣道部に所属する者(剣道四段)とした。

本学の特長の一つである武道(剣道)の高い専門性を有する大学生を派遣することで、剣道授業において教員が指導する上での不安や困りごとに対し、適切なサポートが可能であると考えた。

#### ②派遣先中学校の剣道授業の現状

授業のサポートは鹿屋中学校第1学年と2学年の女子生徒全員を対象とした。クラス編成は各年とも1組から3組だが、剣道の授業においては1組と2・3組合同の2クラスに分かれた。尚、剣道経験者は1年生2年生ともに1名ずつであった。

10時間の授業中、初回の授業は教員の方でオリエンテーション的な内容(所作・礼法等)を行い、2021年11月16日から3日間、午後授業の5・6校時、剣道の授業計画においては2・3・4時間目の授業の際に学生を派遣した。

#### ③事前打ち合わせによる授業の到達目標等

現2年生は昨年度の授業を受けて剣道を体験しているが、技術的に不十分なことから1・2年生ともに伝統的な行動の仕方としての礼儀作法(左座右起)の実践と基本動作(姿勢、構え、足捌き、素振り、打突の仕方など)の習得を目指した。

また、ICTなどのサブ教材の提供よりも実際の示範をする方がより強いインパクトやモチベーションを生徒に与えるであろうということから、こちら(大学)から教材を提供するよりも、中学校の生徒や現場教員の状況に応じて授業を進めることとなった。

#### ④授業サポート例

11月16日(火)の実践より

2時間目/10時間目

##### 1. 準備運動



##### 2. 剣道への基本動作

正しい姿勢(自然体)づくりからの中段の構え



##### 3. 上下振り

足の踏み方と足さばきの説明



#### 4. 素振り

前進後退 正面打ち



#### 5. 斜め振り



#### 6. 跳躍素振りへの導入



7. 相对動作  
所作 礼法



8. 正面打ちへの導入



9. 踏み込んで面打ちへの導入



#### (4) 剣道授業サポートの成果と課題(保健体育科教員の視点から)

今回の派遣先中学校での武道担当保健体育科教員のインタビュー結果を以下に示す。

##### ①鹿屋体育大学と連携した授業を実施しての成果

剣道の基本動作,特に正しい構え,竹刀の振り方(素振り)などを細かく指導できたことにより,生徒の技能習得に繋がった。また,実技の模範を見せることで生徒の剣道への関心が高まったことの効果があった。

##### ②鹿屋体育大学と連携した授業の課題

今回は3時間分だけであったので,もっと授業時間があればよかった。

##### ③鹿屋体育大学と連携した授業で,生徒が特に身に付けることができたと考えること

礼儀,作法,他者を尊重する態度の醸成,剣道・武道を学習する上での心構え,正しい姿勢と基本動作(素振り,足捌き,基本の打ち方など)。

##### ④今後のサポートの在り方

大学生が来てくれたことによる生徒の関心の高まりが確認できた。可能であれば,単元8~10時間中の継続した指導が実現できればさらに良い。

## (5) 剣道授業サポートの成果と課題(生徒の視点から)

剣道授業後の生徒対象のアンケート結果を以下に示す(有効回答数:91名)。

### ① 剣道授業の楽しさ(図1)

「剣道の授業は楽しかったですか」の問いに対し、90%以上の生徒が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。「あまりそう思わない」と回答した生徒は6名、「まったくそう思わない」と回答した生徒は1名であった。

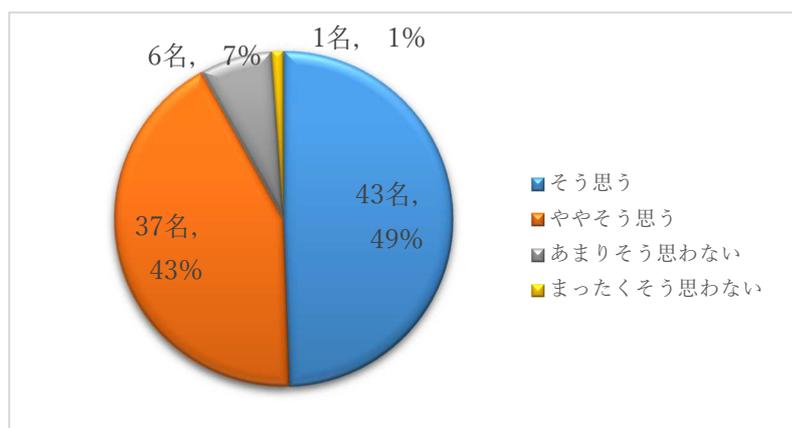


図1 「剣道の授業は楽しかったですか？」の回答

### ② 今後、授業を受けたい「武道」の種類(図2)

「今後、授業を受けたい武道の種類について教えてください」の問いに対し、「弓道」と答えた生徒が57名と最も多く、次いで、「空手道」が24名、「剣道」「相撲」が20名と続いた。

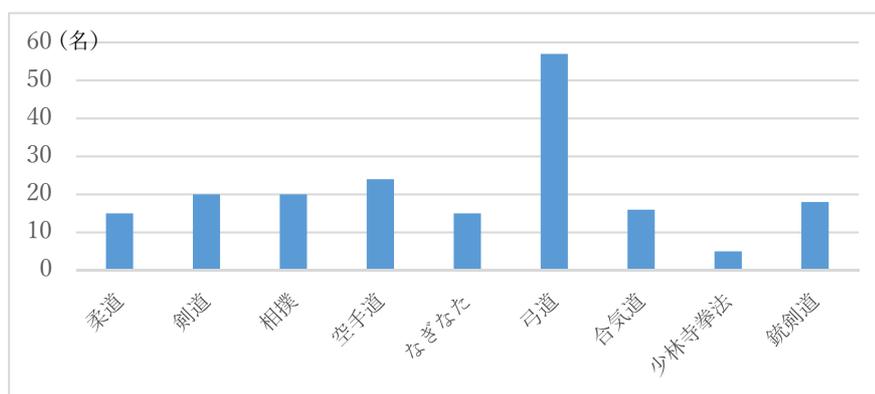


図2 「今後、授業を受けたい武道の種類」の回答(複数回答可)

### ③剣道授業への興味・関心(図3)

「武道の授業を経験して、武道への興味・関心が高まりましたか?」の問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答が86%、「あまりそう思わない」が14%という結果であった。

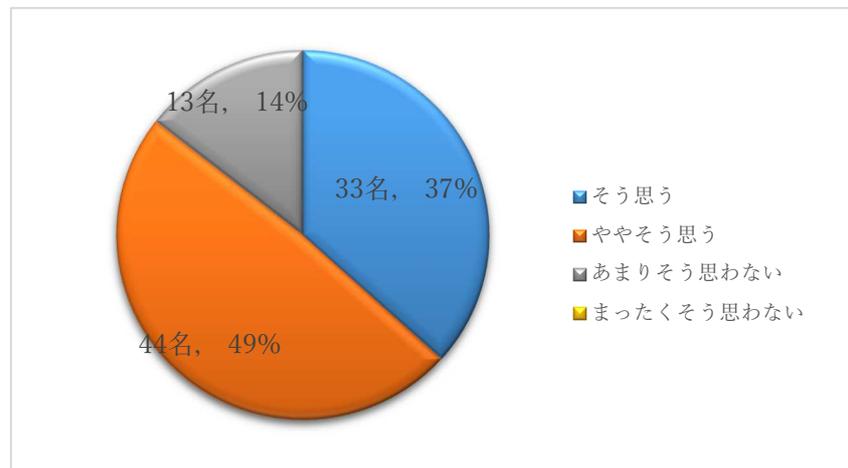


図3 「武道の授業を経験して、武道への興味・関心が高まりましたか?」の回答

### ④剣道授業を通して身に付けた力

「『武道』の授業を通して、どのような力が身に付きましたか?」の問いに対し自由記述で回答を求めた。得られた回答についてテキスト分析を行い、出現回数が上位10までの語(名詞)を表1に示している。最も多く出現した語は「礼儀」で(24回)、次いで「力」「姿勢」の順であった。

表1 剣道授業を通して身に付けた力  
(頻出語・上位10語)

抽出語	出現回数
礼儀	24
力	16
姿勢	11
腕力	9
集中	7
作法	6
正座	6
声	6
筋力	3
剣道	3
素振り	3
足	3
体	3
忍耐	3
礼	3

また、これらの語を含む回答例を以下に示す。

表2 剣道授業を通して身に付けた力(回答例)

礼儀と集中力。 腕力。礼儀正しさがより付いた。 礼儀・姿勢はもちろん、真剣に取り組む姿勢が身に付いた。 礼儀、我慢する力、ものを支える力、手などの力。 正しい礼儀作法。 背筋がピンとなった。正座が長くできるようになった。 正しい礼儀作法。 背筋がピンとなった。正座が長くできるようになった。 リズム感やタイミング足の動きが身に付けるようになった。
---

⑤剣道授業の中で、最も印象的だったこと

「『武道』の授業の中で、最も印象に残ったことは何ですか?」の問いに対し自由記述で回答を求めた。得られた回答についてテキスト分析を行い、出現回数が上位10までの語(名詞)を表3に示している。最も多く出現した語は「試合」(15回)、次いで「体育大学」「先生」の順であった。

表3 剣道授業で印象的だったこと  
(頻出語・上位10語)

抽出語	出現回数
試合	15
体育大学	14
先生	11
竹刀	11
練習	9
剣道	7
素振り	6
足	6
面	6
上下	5

また、これらの語を含む回答例を以下に示す。

表4 剣道授業で印象的だったこと(回答例)

生徒と体育大生の試合。かっこよかった。 先生同士の剣道の試合や踏み込む足の音。 体育大の先生の足捌き。 竹刀を使わずに手で竹刀を再現して上下振りなどを練習したこと。 1分間の試合。二人組で練習したこと。 2人組での練習が印象に残った。
--

⑥ 剣道授業で、役立ったこと、新たに気づき

「『武道』の授業で、役立ったこと、新たに気づいたこと等について教えてください。」の問いに対し自由記述で回答を求めた。得られた回答についてテキスト分析を行い、出現回数が上位 10 までの語(名詞)を表 5 に示している。最も出現回数が多かったのは「姿勢」(14 回)で、次いで「武道」「正座」の順であった。

表5 剣道授業で役立ったこと  
(頻出語・上位 10 語)

抽出語	出現回数
姿勢	14
武道	10
正座	9
竹刀	9
剣道	8
礼儀	7
スポーツ	4
声	4
作法	3
礼	3
腕	3

また、これらの語を含む回答例を以下に示す。

表6 剣道授業で役立ったこと(回答例)

<p>真剣に取り組む姿勢。 昔から日本は姿勢を綺麗にしたり、声を出すことを大切にしてきたのかなと少し思いました。 武道で正座をすることで姿勢が良くなることに役立った。 ジャンプして竹刀を振る時、リズム感が大切だと分かりました。 武道は礼儀正しさが大事だということに気づいた。 日本のスポーツはとても相手を思うスポーツだと思った。</p>
--

⑦ 剣道授業で、困ったこと、難しかったこと等、課題

「『武道』の授業で、困ったこと、難しかったこと等、課題について教えてください。」の問いに対し自由記述で回答を求めた。得られた回答についてテキスト分析を行い、出現回数が上位 10 までの語を表 7 に示している。最も多くの出現した語は「足」(21 回)で、次いで「竹刀」「振る」の順であった。

表7 剣道授業での課題  
(頻出語・上位 10 語)

抽出語	出現回数
足	21
竹刀	15
振る	11
面	10
素振り	9
重い	8
振り	6
打つ	6
ジャンプ	5
上下	5
跳躍	5
動き	5

また、これらの語を含む回答例を以下に示す。

表8 剣道授業での課題(回答例)

足の進み方や使い方。 竹刀を振る時に意外と重くて、しっかり止めたり真っ直ぐ振るのが難しかった。 面などをつけるのが難しかった。 面を打つとき、隙ができてしまい、胴を一本入れられてしまった。 竹刀が重かったから上下や左右に振るのが難しかった。 ジャンプしながら素振りをするのが難しかった。 足の動きと手の動き。
--

⑧剣道授業の中で自ら考えて工夫したこと

「『武道』の授業の中で、自ら考えて工夫したことについて教えてください。」の問いに対し自由記述で回答を求めた。得られた回答についてテキスト分析を行い、出現回数が上位 10 までの語を表9に示している。最も出現回数が多かった語は「振る」(12回)で、次いで「竹刀」「声」の順であった。

表9 剣道授業で工夫したこと  
(頻出語・上位 10 語)

抽出語	出現回数
振る	14
竹刀	13
声	12
出す	9
足	8
見る	7
人	7
上手	6
動き	6
教える	5

また、これらの語を含む回答例を以下に示す。

表10 剣道授業での課題(回答例)

真っ直ぐに竹刀を振れるように意識をしながら振ること。 工夫したところら竹刀を後ろに振る時中心になるように引いた。 いつもより大きい声を出した。 足の踏み込みがあまり得意ではなかったから声でカバーした。 足の踵を上げるところ。 剣道部の人の動きをよく見て真似できた。 動きをつけながら教えてあげた。
--

⑨剣道授業の経験を生かせそうな場面

「『武道』の授業の経験を、今後どのような場面で生かせそうですか?」の問いに対し自由記述で回答を求めた。得られた回答についてテキスト分析を行い、出現回数が上位 10 までの語を表 11 に示している。最も出現回数が多かった語は「礼儀」(19 回)で、次いで「生活」「部活」の順であった。

表 11 剣道授業の経験を生かせそうな場面  
(頻出語・上位 10 語)

抽出語	出現回数
礼儀	19
生活	8
部活	7
姿勢	6
人	6
不審	6
授業	5
声	5
剣道	4
集中	4
正座	4
普段	4
武道	4

また、これらの語を含む回答例を以下に示す。

表 12 剣道授業での課題(回答例)

礼儀などを部活(弓道部)に生かせそう。 武道で得た礼儀を生活で生かしたい。 普段の姿勢や、生活の中で体力を使う時に剣道をしていれば体力もつくし、姿勢も、良くなり印象を良くできると思いました。 面接などの時のはきはきした声と姿勢。 不審者が来た時に身を守ること。 集中力は勉強、礼儀は色々。
---

## (6) 剣道授業サポートの成果と課題(大学生の視点から)

今回派遣した学生へのインタビュー結果を以下に示す。

### ①剣道授業サポートの成果(役立ったこと, 新たな気づき等)

- 教育実習以外で現場での指導は初めてだった。良い経験となった。
- 初心者の生徒からすると馴染みのない運動動作であり, そこは見本を示して生徒の反応(頷きやなるほどという声が聞けた)が確認できた。
- 技術指導の際にいきなり竹刀を持つのではなく手刀で「型」を作っておこなった。
- 説明の際は, 先ず, 静寂な環境を作り注目させてからおこなった。

### ②剣道授業サポートの課題(困ったこと, 足りなかったこと等)

- 最初の時間に, 足の構えを指導していないのにいきなり竹刀を振らせてしまうなど, 指導内容と手順がバラバラになってしまった。
- 初心者に分かりやすく伝える能力(表現力)を身につける必要がある。
- 剣道特有の用語や説明は初心者には理解し辛いので分かりやすく言語化して伝える能力を養うことが今後の課題である。
- 馴染みのない運動動作だからこそ, もっと明確にわかりやすい本時の目標を設定する。
- さまざまな局面での安全確認と竹刀や剣道具の点検をその都度細かくとること。(大まかにしないこと)

### ③剣道授業で生徒が身に付けたことは何か。

- 剣道の礼儀作法, 正しい作法・礼法の仕方。
- 技能のうち, 基本動作, 特に素振りの中では刃筋の通った上下振りと正面打ち。

### ④剣道授業サポートの際に, 自ら考えて工夫したこと

- 初心者の生徒たちには, いきなり竹刀を持たせての素振りや打突は, 竹刀の重さに慣れていない為正しい動作で行うことが難しい。よって初めは手刀を用いて「型」を作った上でその後竹刀を持たせておこなった。
- 実際の打突は「すり足」ではなく「踏み込み足」でおこなう。この技術は初心者には非常に難しい為, 足さばきだけの練習時間を設けて, スキップ動作から足の音を鳴らしてみる練習などを取り入れた点。

### ⑤今後, この経験をどのように生かせそうか, 生かしたいか。(回答ママ)

- 初心者を対象にして指導を行うのは初めての経験でした。これから教員の道に進もうと考えているので, 剣道を教える際は今回の経験を活かして, より良い工夫した指導ができると思います。
- 私の将来の夢は, 幼い頃から教員になることである。教育実習では母校の高校に行ったので, 教育実習とは違う中学生を対象に, 今回このような経験をすることができ, 他の人には経験することができない中学・高校の両方で授業を行うことができたのは, 将来授業することに恐れることのない自信がついた。体育という授業は楽しいと思ってもらうことが大切であると思うので, 生徒と一緒に汗を流し, 教員自身も学び続ける姿勢を持つことが重要であると感じた。見本を示すことが生徒には一番わかりやすく, 生徒の反応も良いことを学んだので, 教員になった暁には活かしていきたい。

## (7)まとめ

今回、鹿屋市内の中学校への剣道授業の派遣が決定するまで、先ず、中学校における武道授業の必修導入は平成24年度より決定、実施されているが、その中でも剣道を選択する学校は非常に少ない状況であり、令和3年度の市内中学校においては2校のみであった。その内、鹿屋市立鹿屋中学校に受け入れてもらい本事業を展開できた。剣道は柔道に比べて準備する教材・用具の面で多彩であること、剣道を専門とする教員の絶対数などがその要因であろうと考えられる。

派遣する学生に対しては、特別に本事業に対しての準備という時間を十分に取ることはせず、数回のミーティングの中で、大学での授業及び課外活動で得た、体育・武道・剣道に関する「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を以て主体的に且つ、時には指導する生徒たちと協働して自らも学ぶ姿勢で取り組むことを助言した。

3日間の集中的な授業であったので、ICT教材を準備してそれに頼るのではなく、敢えて剣道における礼法と基本動作を学生自身が教材となって示範することで、少ない時間数での成果を求めた。

これについては生徒へのアンケート結果、「武道の授業を経験して、武道への興味・関心が高まりましたか?」の問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」の回答が86%であったことや、剣道授業で印象的であったことの質問に関するテキストマイニングが「体育大学」「先生」という語が上位を占めていたことから、その成果を伺うことができる。

また、「『武道』の授業の経験を、今後どのような場面で生かせそうですか?」の問いに対して、「礼儀」の回答が最多であったことから、剣道を通じて中学生に伝える大切な要素が確認できたとも捉えられる。

最後に、今回の剣道授業派遣は2名の学生によるTT(Team Teaching)で授業を展開した。現状では体育の中でも剣道を専門とする教員の数は非常に少ない。その中でも現場の先生たちは工夫して生徒たちに武道の良さを伝え、指導している。今後、学生(剣道専門学生)のTT派遣が定着すれば鹿屋体育大学の犬隅地域における社会貢献度はさらに高まるものと考えられる。